

～良好な環境保全、快適な環境の維持・創造を目指して～

留萌市の環境

～ 平成24年度版 ～



— 留 萌 市 —

留 萌 市 章



説 明

留萌の「ル」を図案化したもので、菱形は一粒の種が固い土を割り萌え出てきて葉を形づくったことを表わし、同時に北海道の北の図案にも通じ、北海道留萌の発展性を表わしている。

昭和39年12月16日制定

留 萌 市 民 憲 章

わたくしたちは美しい日本海と留萌川にそう山々の緑にかこまれた留萌の市民です。

港を中心に栄える産業都市、豊かで健康な文化都市がわたくしたちのねがいです。このねがいを実現するため市民憲章をさだめます。

- 1 海の資源や山の緑を大切に^{まち}して美しい市にしよう。
- 1 人に迷惑をかけず公共の物を大切に^{まち}して清潔な市にしよう。
- 1 きまりを守り、みんな^{まち}でたすけ合う秩序ある市にしよう。
- 1 働くこと^{まち}によるこびをもって、仕事に精を出し豊かな市にしよう。
- 1 丈夫な^{まち}からだ^{まち}とあかるい心^{まち}をもち、平和な市にしよう。

昭和48年 3月31日制定

市 の 木 及 び 花



市の木 アカシア

昭和52年10月 1日制定



市の花 ツツジ

昭和52年10月 1日制定

《 目 次 》

第1章 留萌市の概要

1. 位置	1
2. 地勢	2
3. 沿革	2
4. 人口及び世帯数の推移	3
5. 気象	4
6. 土地利用	5
7. 用途地域区分	5

第2章 留萌市の環境行政の概要

1. 環境保全行政機構	6
2. 留萌市環境基本条例	6
3. 留萌市環境基本計画	7
4. 留萌市庁内環境率先行動計画	7
5. 留萌市地球温暖化防止実行計画	8
6. 留萌市環境審議会	9
7. 留萌環境ネットワーク	10
8. 環境教育事業	10
9. こどもエコクラブ制度	10
10. 環境の日・環境月間	11
11. お茶の間トーク	11
12. レジ袋無料配布の中止	11
13. 環境家計簿	12
14. 浄化槽設置整備事業	12
15. 留萌の街をきれいにする週間	13
16. クリーンアップ日本海	13
17. 美サイクル館まつり	13
18. 環境緑地保護地区、自然環境保護地区	14

第3章 環境調査・環境保全事業の概要

1. 水質関係	15
2. 大気関係	22
3. 悪臭関係	24
4. 騒音、振動関係	25
5. 土壌関係	26
6. 環境調査経費	26
7. その他	27

第4章 廃棄物処理行政の概要

1. 廃棄物行政機構	3 1
2. ごみ処理量実績	3 2
3. 収集人口、世帯、収集量	3 3
4. ごみリサイクル率	3 3
5. 廃食用油回収量及び石けん製造量	3 3
6. 町内会清掃実績	3 4

資料編

1. 関係用語解説	3 5
2. 平成24年度環境調査測定地点図	3 7
3. 留萌市環境基本条例	3 8
4. 環境行政の歩み	4 1
5. 廃棄物行政の歩み	4 5

第1章 留萌市の概要

1. 位置

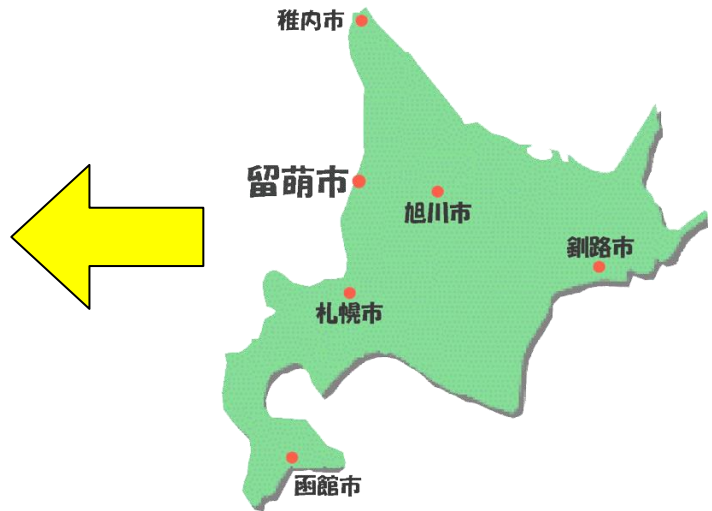
本市は、北海道の西北部に位置し、東西23.6km、南北12.6km、総面積297.51km²を有し、全道の約0.4%を占めています。(表1-1、図1-1)

市域の西側は日本海に面し、南側は増毛町、北側は小平町、東側は沼田町、北竜町に隣接し、ポロシリ山地を水源とする留萌川は、市内の北部を東西に流れ日本海に注いでいます。

表1-1 留萌市の位置

面積		297.51km ²
位置	経度 (東経)	東端 141°54'17"
		西端 141°36'42"
	緯度 (北緯)	南端 43°45'14"
		北端 43°59'29"
広さ	東西	23.6km
	南北	12.6km

図1-1 留萌市の位置



2. 地 勢

地勢は、東西に走る留萌川を中心に、両翼には平原と丘陵が続き、北部と南部はやや異なった性状となっています。

北部は軟質な地層を主とし、高さはほとんど250m以下の丘陵地となっています。

南部は硬い地質が分布し、標高350m以下で北部に比べやや高峻を示しています。

豊かな自然に恵まれた本市は、西には日本海、南北には暑寒別天売焼尻国定公園が連なり、暑寒別山系をはじめ夢の浮島といわれる天売、焼尻が望めます。

特に晴れた日には、遠く利尻、礼文の島影が夕陽の輝く日本海に浮かぶ姿が見られ、風光明媚な街となっています。



留 萌 市 全 景

3. 沿 革

本市は、北海道の中でも古い歴史を有しており、慶長年間（1596年～1614年）には、松前藩によるアイヌの人たちと交易する場所として「ルルモツペ場所」が開設されたのが始まりといわれています。

明治2年には、エゾ地が北海道となり、ルルモツペは「留萌（るもえ）」に改められ、同35年には2級町村制が施行され地方自治体の姿を確立しました。明治41年には町制が施行され、昭和22年に道内12番目の市として誕生しました。

なお、留萌の名を馳せたニシン漁は、昭和20年頃をピークとして好不漁を繰り返し、同30年を境に不漁が続きました。

留萌港は、明治43年に留萌港築港工事に着手し昭和8年に完成をみています。

この間、留萌川の切り替え、副港など港を中心とし、鉄道の敷設とともに、産業、経済、交通などの進展がみられました。

その後、昭和11年に国際貿易港に指定され、更に同27年には国の重要港湾の指定を受けています。道北地方の物流基地としての役割が確立し、基幹産業である漁業・水産加工業、産炭地として発展してきました。

ニシン街道として、北海道遺産に選定されたように「鯨の千石場所」として栄え、水産加工都市として、重要港湾である留萌港を中心に道北の門戸として発展している街です。



黄金岬からの夕陽

4. 人口及び世帯数の推移

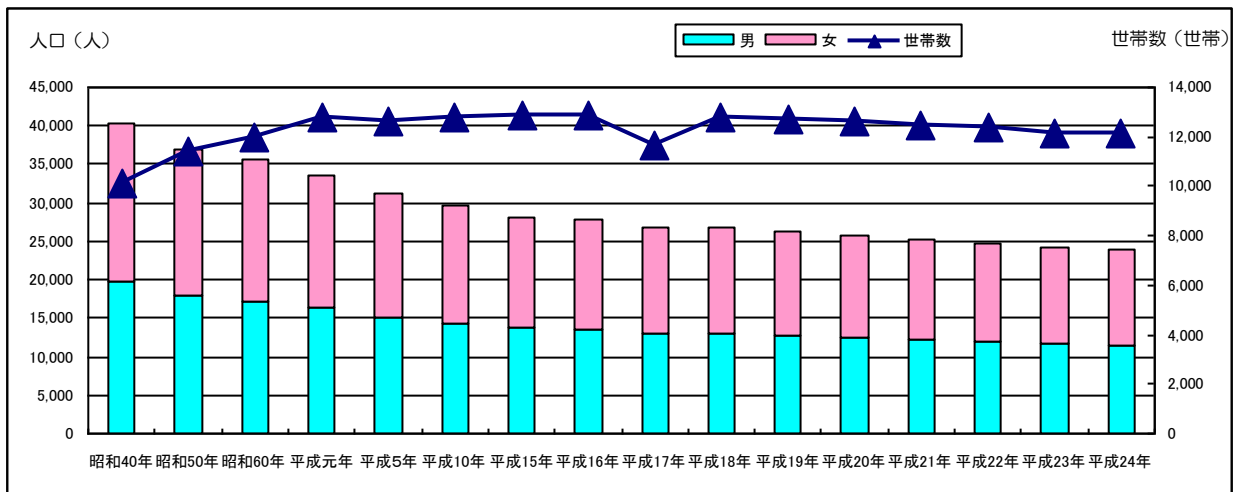
留萌市の人口は昭和42年の42,469人をピークに、同45年頃から漁業不振により漁業従事者を中心とした転出が増加し、昭和50年から同60年にかけては、基幹産業である漁業、水産加工業の衰退とあいまって、国鉄羽幌線の廃止と国鉄民営化の人員整理などが、人口減少に拍車をかけました。

その後も人口の減少は続き、平成9年には3万人、平成22年には2万5千人を割り、平成24年12月の人口を10年前と比較すると、およそ16%にあたる約4千5百人が減少しています。

世帯数では、やや減少傾向のなか1万2千前後を推移しており、人口に比べると数に大きな変化は見られませんが、平成24年12月での1世帯あたりの人数は、平均1.97人となっており、2.0人を割り込んでいます。(図1-2)

若年層の都会志向や若者の就労を確保する企業が市内に少ないこと、少子高齢化や社会情勢の変化等によるものが人口減少の主な要因と考えられます。

図1-2 人口及び世帯数の推移



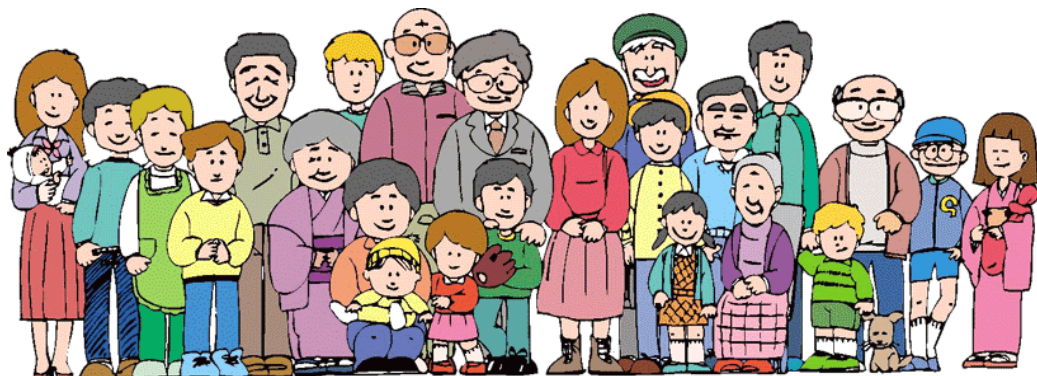
資料：留萌市統計書

表1-2

H24年12月末現在

人口	23,918人	うち65歳以上
男	11,422人	2,899人
女	12,496人	4,172人
世帯数	12,136戸	

資料：市民課



5. 気 象

留萌市の気候は、日本海側気候区に属しており、対馬暖流の影響を受けて気温は温暖であるものの積雪量が多く、風が強いことが特徴となっています。

風の特性としては、年間を通して東南東の風が卓越しており、冬季になると西北西及び西南西の風が多くなり、ここ数年の風速は全道平均を上回る年平均毎秒5m台を記録しています。

また、平成24年の最深積雪は30年ぶりに146cmを記録しました。

(表1-2、図1-3)

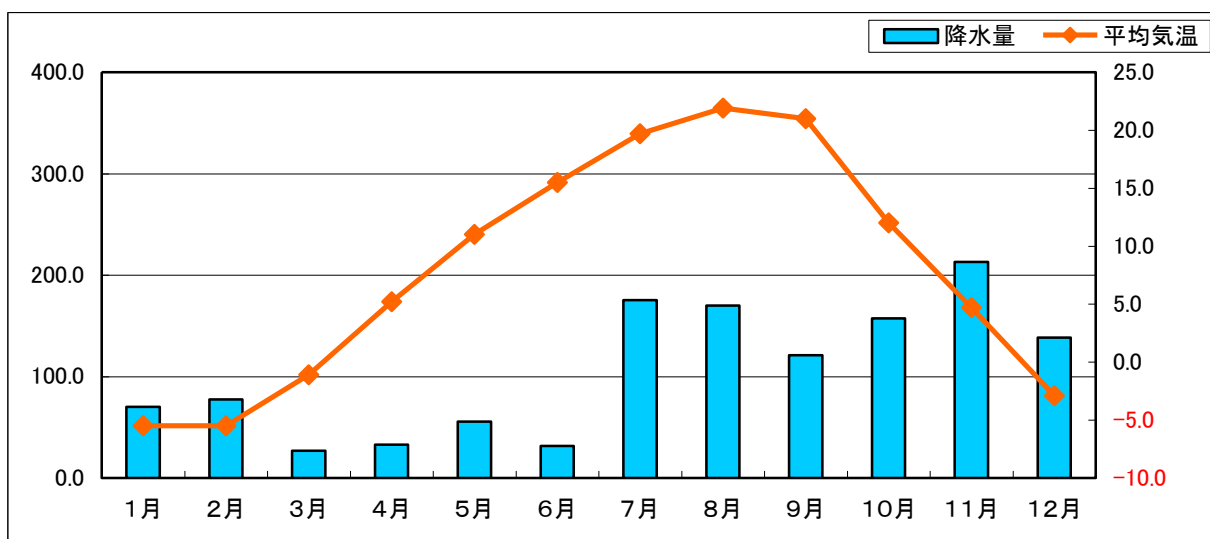
表1-2 気象概況

年次	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	最深積雪(cm)	平均風速(m/s)	日照時間(時間)
平成20年	8.2	31.8	-18.9	899.5	57	5.0	1637.5
平成21年	8.1	28.5	-12.1	1,057.5	79	5.0	1427.1
平成22年	8.5	32.9	-13.9	1,069.5	82	5.4	1275.6
平成23年	7.9	30.3	-13.9	1,394.0	122	5.3	1424.9
平成24年	8.0	33.1	-17.7	1,270.0	146	5.2	1523.7

図1-3 平成24年別平均気温及び降水量

(降水量：mm)

(気温：°C)



平成24年の年間平均気温は、前年と比べると0.1°C上がり、8°Cちょうどになりました。

月別の平均気温で最も高くなる8月には、25°C以上の夏日が14日間とほぼ前年並みでしたが、9月は17日間と8月より多く、最高気温も9月18日の33.1°Cで、30°C以上の真夏日は前年の1日から7日に増えました。また冬期間に最低気温が-10度以下を記録したのは26日間となっており、前年より14日間増えました。

降水量については、10年ぶりに11月が最も多い年となりました。年間降水量についても、過去10年間では昨年に次ぐ2番目に多い量となりました。

降雪量についても、年間降雪量は588cmと4年ぶりに600cmを割りましたが、最深積雪は2月8日に146cmを記録し、昭和57年以来30年ぶりの数値になりました。

(資料：気象庁)

6. 土地利用

地目別土地利用の状況を見ると、宅地面積は平成14年度までは増加傾向でしたが、その後はほぼ変わらない状態となっています。また、田畑は減少傾向にあり、市内面積の約4%となっています。最も構成比が高い山林はほぼ60%前後で推移しています。(表1-3)

表1-3 地目別土地利用の状況

区 分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	
						面積 (km ²)	構成比 (%)
総面積 (km ²)	297.44	297.44	297.44	297.51	297.51	297.51	100.0
宅 地	4.15	4.15	4.15	4.18	4.18	4.15	1.4
田 畑	13.19	13.06	13.06	12.87	12.85	12.82	4.3
山 林	174.91	174.47	174.14	174.69	174.73	174.73	58.7
原野・雑種地	28.07	28.51	28.51	28.45	28.44	28.49	9.6
その他	77.12	77.25	77.58	77.32	77.31	77.31	26.0

※その他には、池沼、牧場、墓地、境内地、保安林、公衆用道路、河川敷地、公園等が含まれます。

資料：税務課

7. 用途地域区分

本市の都市計画区域面積は、約4,409.4haであり、そのうち用途地域は約835.7haで全体の約1/5の面積となっています。

用途地域の約6割は、第一種中高層住居専用地域や第一種住居地域などの住居系地域になっており、近隣商業地域と商業地域が合わせて8%、準工業地域や工業地域などの工業系地域が33%となっています。

また、白地地域は約3,573.7haとなっています。(表1-4)

表1-4 都市計画区域面積

区 分	面積 (ha)	比率 (%)
都市計画区域	4,409.4	—
用 途 地 域	835.7	100.0
第一種低層住居専用地域	53	6.3
第一種中高層住居専用地域	143	17.1
第二種中高層住居専用地域	115	13.8
第一種住居地域	135	16.2
第二種住居地域	35	4.2
準住居地域	12	1.4
近隣商業地域	32	3.8
商業地域	35	4.2
準工業地域	143	17.1
工業地域	128	15.3
工業専用地域	4.7	0.6
白地地域	3,573.7	—

資料：都市整備課